

林業経営体における SDGs への効果に関する一考察 —有限会社高見林業を事例として—

齋藤州生¹・吉野聡¹・佐藤孝吉¹

1 東京農業大学地域環境科学部

要旨：SDGs は林業経営体の事業が環境，経済，社会へどのように関連しているかを示す重要な指標と考える。SDGs における 17 の目標と 169 のターゲットは多様性がある。林業経営体が SDGs を導入した事業を実施するためには，どの目標に対して効果があるのかを見出す必要がある。そこで，栃木県鹿沼市の有限会社高見林業の 3 つの事業を事例として SDGs への効果について検討した。各ターゲットを 4 段階で評価し，点数化して分析した。事業によって効果が様々であり，SDGs の具体的な活用へと展開できることを確認した。

キーワード：林業経営体，栃木県鹿沼市，高見林業，SDGs，ステークホルダー

A study on the effects of SDGs on forestry management entities: A case of Takami forestry Co. Ltd.

Kunio SAITO¹, Satoshi YOSHINO¹, Takayoshi SATO¹

¹ Faculty of Regional Environment Science, Tokyo University of Agriculture

I はじめに

持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）は、「誰一人取り残さない」持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標である。2015 年の国連サミットにおいて全ての加盟国が合意した「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」の中で掲げられたものである（1）。世界中における企業，自治体，NPO，教育機関など多くの団体が参加してきている。SDGs への参加は単なる社会貢献の表明に留まるとは限らない。企業の中には自身の事業体における SDGs を公表することにより，ESG 投資を受けるなど新たなステークホルダーを得ている事例もある。林業経営体は，環境，経済，社会に対して様々な影響をおよぼしており，SDGs に参加することで，自社が身近な地域だけではなく，グローバルな視野において社会に貢献することが確認できる。

SDGs における 17 の目標と 169 のターゲットは多様性がある。林業経営体が SDGs を導入した事業を実施するためには，どの目標に対して効果があるのかを見出す必要がある。栃木県鹿沼市に位置する有限会社高見林業（以下，高見林業と略する）は，顔の見える家づくり事業，認証材生産事業，林業経営の集約化事業の 3 つの事業を展開してきている。それぞれの事業の特徴を踏まえ分析することにより，林業経営体の社会貢献やステークホルダーへの理解へと発展していくのではないかと考えた。そこで，本論文では，事業別に SDGs の達成基準を分析

してその貢献度を確認し，さらに SDGs を活かした経営の方向性について考察してみることにした。

II SDGs への取り組み概要と高見林業の事業

高見林業は，SDGs の重点的な取り組みとして，「森林管理の担い手として適切に森林を管理し，森林の持つ公益的機能を十分に発揮させ，災害に強く，効率よく二酸化炭素を吸収させ，資源の循環に役立ち，地域に仕事を作り，地域コミュニティの維持に貢献すること」をあげ，「環境省ローカル SDGs」および「とちぎ SDGs 推進企業登録制度」に 2020 年より登録された。

高見林業の 3 つの事業とは，第 1 に，2000 年より実施している顔の見える家づくり事業である。木材利用に関するサプライチェーンを拡充し，再生可能資源の利用と安定した木材需要を確保する事業である。第 2 に，2006 年より実施している認証材生産事業である。森林認証制度の評価基準に則り森林環境を適切に管理しつつ，木材生産との両立を図り，多面的機能を高度かつ恒久的に発揮させる事業である。第 3 に，2010 年より実施している森林所有者と連携して効率の良い森林施業を行う施業集約化事業である。森林施業の効率化を図り，人・物・金の全てに課題を抱える林業経営を産業として維持し，持続可能な林業経営を実現する事業である（2）。

III 各事業における SDGs への効果分析

事業ごとのSDGsへの効果は、ターゲットごとに分析を行いその数値を平均することで、目標ごとの貢献度とした。貢献度の分析は、高見林業代表者およびSDGs担当者の協力を得て、事業2内容の確認を通して各事業と達成基準の関係性の強さを、強・中・弱・無の4段階で評価を行なった。直接的に関係する項目を“強”として3点を付与した。やや直接的に関係する項目は“中”として2点を付与した。間接的に関係する項目は“弱”として1点を付与した。関係の無い項目は“無関係”として、点は付与しなかった。数値化したものを貢献度合いのスコアとして集計した。

IV 分析結果

分析の結果を表-1に示す。林業経営体全体では、目標7, 8, 6, 15, 13の順に高評価となった。森林の公益的機能やエネルギー問題に対する期待が大きいことを確認した。事業ごとの評価は、認証材生産事業(22.09)が最も高く、その中でも目標6, 2, 14, 12が高評価であった。認証材生産事業において高見林業が取得している森林認証制度の基準が、SDGsの目標に類似していた為と考えられる。次いで林業経営の集約化事業(19.35)であり、比較的高評価の目標は見当たらなかった。一般的に安定した評価となった。顔の見える家づくり事業(17.18)は、目標7が高評価となった。関連産業との結びつきが強く、ローカルな活動の特徴としている。

評価が低かったのは、目標2, 3, 14, 4であり林業

経営との関連性が少ないと考えた。事業ごとでは、認証材生産事業に達成の可能性が高い目標が多いこと、顔の見える家づくり事業が目標6, 11, 13, 14, 15に対し達成が難しいことを確認した。

V 考察およびまとめ

SDGsの目標や事業内容ごとの評価をもとにすると、特に認証材生産事業を実施することによりSDGsへの達成度が高めることができることを確認できた。しかしながら、地域社会への貢献を考えると施業の集約化事業は重要であるし、誰一人残さないという本来の目標とも関連すること、顔の見える家づくり事業は、ローカルな事業であり、グローバルな視点を加えることにより具体的な事業が実施できるのではないかと考えた。

今後は、SDGsへの効果を考慮しながら事業を実施することで国際社会との結びつきを強め、ステークホルダー協働するような良好な関係へと発展する可能性があると考えた。

引用文献

- (1) 外務省；<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/>
- (2) 齋藤州生・吉野聡・佐藤孝吉(2019)林業経営におけるSWOT分析の検討—有限会社高見林業を事例として—。関東森林研究71(1): 21-24

表-1 高見林業の各事業におけるSDGsへの貢献度合い

SDGsの目標	ターゲット数	高見林業の事業内容の評価*						平均	標準偏差		
		顔の見える家づくり事業		認証材生産事業		林業経営の約化事業					
		スコア	偏差	スコア	偏差	スコア	偏差				
1. 貧困をなくそう	7	1.29	-0.05	1.57	0.24	1.14	-0.19	1.33	0.18		
2. 飢餓をゼロ	8	0.00	-0.25	0.75	0.50	0.00	-0.25	0.25	0.35		
3. すべての人に健康と福祉を	13	0.23	-0.13	0.46	0.10	0.38	0.03	0.36	0.10		
4. 質の高い教育をみんなに	10	0.40	-0.10	0.50	0.00	0.60	0.10	0.50	0.08		
5. ジェンダー平等を実現しよう	9	1.11	0.04	1.11	0.04	1.00	-0.07	1.07	0.05		
6. 安全な水とトイレを世界中に	8	1.25	-0.46	-	2.25	0.54	+	1.63	-0.08	1.71	0.41
7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに	5	3.00	0.40	+	2.40	-0.20		2.40	-0.20	2.60	0.28
8. 働きがいも経済成長も	12	1.67	-0.17	1.83	0.00	2.00	0.17	1.83	0.14		
9. 産業と技術革新の基盤をつくろう	8	1.38	-0.08	1.50	0.04	1.50	0.04	1.46	0.06		
10. 人や国の不平等をなくそう	10	0.80	-0.03	0.80	-0.03	0.90	0.07	0.83	0.05		
11. 住み続けられるまちづくりを	10	1.00	-0.43	-	1.70	0.27		1.60	0.17	1.43	0.31
12. つくる責任 つかう責任	11	1.27	-0.03	1.64	0.33	1.00	-0.30	1.30	0.26		
13. 気候変動に具体的な対策を	5	1.20	-0.40	-	1.80	0.20		1.80	0.20	1.60	0.28
14. 海の豊かさを守ろう	10	0.00	-0.40	-	0.80	0.40	+	0.40	0.00	0.40	0.33
15. 陸の豊かさを守ろう	12	1.33	-0.31	-	1.92	0.28		1.67	0.03	1.64	0.24
16. 平和と公正をすべての人に	12	0.67	0.00	0.58	-0.08	0.75	0.08	0.67	0.07		
17. パートナリシップで目標を達成しよう	19	0.58	0.04	0.47	-0.07	0.58	0.04	0.54	0.05		
SDGsにおける17の達成目標(合計)	169	17.17	-2.36	22.09	2.55	19.35	-0.19	19.54	2.01		

*事業内容の評価は、SDGsにおける各指標を4段階で点数化して集計したものの。高いほど貢献度が高い。偏差(σ)の+は特に評価が高いもの。-は特に評価が低いもの。